

私の意見

5/26の新聞報道にもありましたように、10回に渡って実施された「庁舎建替えにかかる市民説明会」の集計結果が示されました。私としても、独自に集計はさせていただきましたが、説明会後の回収データは集計できなかった関係もあり、今回契約管理課から示されたアンケート集計結果をもとに、意見をまとめておきたいと考えます。

1 説明会を通しての疑問点

確認 A案…現在の市庁舎地への建設
B案…現プラザ萬象地への建設
C案…その他

※詳細な内容については、説明会資料を添付してありますので、そちらに目を通してください。

- ① 何といても、B案が登場してきた経緯があいまいです。唐突感は免れないような気がします。説明会の中で、候補地の中には挙がっていたものと説明されていますが、その根拠はあいまいなままです。
- ② 方針とされている4項目決定に至る中での意見のやりとりが見えません。また、市庁舎建替えと、国からの財政措置を受けることは、どちらも早急に対応すべきものであるという点で「同義」であると説明されていますが、その内容を再確認したいところです。
- ③ 民意をどのように集約する計画なのか。今回の説明会に参加した市民の方は、336名、アンケートに回答した方は、277名です。その中で気がかりなのは、グラフにもあるように、60歳以上の方が70%超だということです。今後、負債を背負っていく20代の参加は3%(3人)、30代では10%(39人)です。また、男女の率を眺めても、男性が79%、女性が21%と大きな偏りがあります。今後、3000名に対しての無作為抽出アンケートを実施するとしても、いろいろな角度からの無作為抽出によって3000名をどのように抽出するのか。また、それらの方にどのように説明をしていくのかが大変難しい問題です。しかも、3000名だとしても、全市民の4.5% $(3000/66620=4.5\%)$ 、有権者の5.5% $(3000/55022=5.5\%)$ に過ぎないことを考えると、それによって、100年の計を判断する材料としていくには、大きな無理があり、問題が残るように思います。アンケートの評価の方法と判断のためのラインを事前に示しておく必要があると考えます。
- ④ 説明の中で、「平成32年には、まだ建設途中のものに対して国の財政措置が受けられるのかという点では、現在問い合わせ中である。」とあります。この点も早急に明確にしなくてはなりません。

2 課題と私の考え

- ① 今回、A,Bの2案が示され、新たな案も受け入れるとしています。しかし、私としては、B案がいろいろな角度から検討されて挙げられたものとは考えられない。つまり、B案は「案」として成立していないと考えます。

その理由として、

- (1) まず1点目は、説明会でも多くの意見が出されていたように、道路の問題です。

白銀交差点から古田刈交差点に至る道路状況は大変厳しいものです。私が個人的にカウントしただけでも、プラザ萬象の交差点を通過する車両は、朝のピーク時となる8:00過ぎには南方向へ1回の青信号での通過車両20台を超えます。また、夕方のピーク時となる17:15以降、北方向へ25台以上が通過していきます。この状況がどの程度厳しいものなのかをきちんと検証する必要があります。また、集団登校の小学生、自転車通学の中学生(中郷方面から気比中へ通学する生徒数は200名を超えます)、高校生の通学路ともなっています。登校時間が出勤時間とずれていることはあるとしても、通学路であることは自明の事柄です。ここに市の職員の自家用車で通勤している数(250~300台)が加わるとするならば、今よりも数段厳しい状況になっていくのは明らかなのではないでしょうか。

萬象北側の市道の朝夕の状況も厳しいものがあり、実態把握の必要があります。

「国が、木ノ芽橋から白銀交差点までの歩道整備を行う」「新幹線駅からのアクセス道路を整備する」ことになっているとの説明は、国道8号線の混雑を解消するための手段とはなり得ないと考えるのが市民感覚です。それをもとに、「調整」によって混雑を悪化させないというのであれば、その手法と改善策を示していく必要があるのです。

さらに述べるのであれば、国道8号線は、笙の川以東において、中郷方面から市街地にアクセスする唯一の道路であり、木ノ芽橋が唯一の橋なのです。市民生活の命綱であるということは逆に考えれば、もしも遮断されたり、大渋滞に至った場合には、市民生活に混乱をきたすことは明らかです。

- (2) 防災面での木ノ芽川氾濫リスクの問題です。

ハザードマップ上、現庁舎に比べプラザ萬象の方が厳しい洪水浸水想定区域となっています。それ以上に、木ノ芽川の直下に立地していくことの危険性と不安は大きなものがあります。これまでの歴史の中で、木ノ芽川氾濫の史実はどうなのでしょう。これまでの木ノ芽川(深川も含めて)の水位と雨量の関係をデータとして把握する必要があります。草に覆われた現在の木ノ芽川の状況は、その不安をさらに大きくします。その部分での方向性を示していく必要があるのです。

- (3) ABともに、それぞれ何がセットとなっているのかを明確にし、その内容についても、今後の見通しを示していく必要があります。

A案のセット……消防庁舎の建て替え

・その見通しを明確にしていく必要があります。

B案のセット……市民文化センターと萬象の解体、第2萬象の建設

防災機能の複軸化

B案のセットについて

・まず、副軸化の具体的な姿を示す必要があります。(詳細な設計図等は不要としても、どのような設備と連携を考えているのかを示す必要があります。)

・厳しいのは、集客ホールの集約です。きらめき・市民文化センター・萬象の3施設を2つに集約するとありますが、これは大変なことです。施設の数ではなく、それぞれの備えている機能を考えると、単純に集約できません。「2萬象に600席のホール」とありますが、その具体的な数字はどこでどのように決定されてきたのか、まったく不明な部分です。

3施設と言いますが、それは間違っています。ご存知のように、きらめきには、①イベントホール ②小ホール 市民文化センターには、①大ホール ②小ホール、プラザ萬象には、①大ホール ②小ホール、があります。つまり、合わせて6つの集客ホールとそれ以外の活動場所があるのです。第2萬象の600席のホールとは、何を指しているのでしょうか。どこでどのように出された数値なのか分かりません。文化センター大ホール(1200席)を指しているのだとしたら、他の5つをどのように担保していく方向なのでしょう。市の文化振興の姿勢にも関わってくる大変大きな問題です。これだけでも、かなりの検討が求められます。

文化ホールには、いろいろな機能があります。コンサート開催機能、育成機能、イベント開催機能、そして何よりも大切な日常の文化活動機能があるのです。イベントを考えればスペースとしての広さが必要ですし、音の響きということにおれば、音響空間としての大きさが求められるのです。ステージや照明・音響・運営の面で、活動に耐えうる施設が必要なのです。

いずれにしても、市の文化ビジョンと強く関わってくるのです。

それに加えて、男女共同参画センターの問題や「あいあいの2つのホール」の使用状況も絡んでくる事柄でもあります。

「稼働率が低い」という言葉を意見交換の中で、何度か耳にしました。しかし、本当に稼働率は低いのでしょうか。私としては、けっして全てが多いとは言えないとしても、けっして少なくはないと思います。実績と他市町との比較もする中で、根拠のあるデータを示すところから始めなければならなりません。簡単にB案とセットとされる問題ではないことは明白です。

6月議会で、その方向性について質問させていただきたいと考えています。

(4) 総務部長と契約管理課のみなさんの説明会に向けての努力と姿勢には頭が下がります。しかし、今回の市庁舎建設対応が1つの課や部局の範疇なのかという点では大変疑問です。プロジェクトチームを設置して、あらゆる角度からデータを収集し、市長が前面に立ち、市の頭脳を結集していく姿勢と覚悟が必要であると考えます。

(5) B案が、上記の内容で、「案」としての体をなしていないと言わざるを得ません。

それを払拭するためには、説明会で出された疑問を丁寧に吟味し、それを市民に示していく必要があります。

① 道路状況把握とその対処の方向性

- ② 駐車場確保の見通し
- ③ 木ノ芽川の分析と防災対応の方向性
- ④ 文化施設の現状把握と文化ビジョンの策定
- ⑤ いかなる可能性も排除しないという呼びかけのもとに C 案として示された他の候補地の検討と評価
- ⑥ 跡地利用の方向性
- ⑦ 特別議決の見通し
- ⑧ なによりも、選定の判断基準として示されている 「利便性」「発展性」「安全性」「経済性」「継続性」 に対しての明確な見通しと根拠の提示

これらを7月中に実施するというアンケートまでに(9月までではありません)まとめる必要が出てきます。

それは、かなり厳しいことです。

そうである以上、市民に示す選択肢は次の2つとなるのではないのでしょうか。

1 案…候補地を A 案の現庁舎地に絞り、丁寧に説明をし、9月までに決定する。そして、財政措置を受ける。

2 案…今回の A 案,B 案さらには C 案を**①②③④⑤⑥⑦⑧**も含めて検討する。当然、財政措置は受けることは見送る。結果的に、A 案ということも十分にありうることを覚悟する。
市庁舎建替えと、国からの財政措置を受けることは、どちらも早急に対応すべきものであるという点で「同義」であることを見直す必要があるのではないのでしょうか。

B 案を示してしまった現時点で、B 案を取り下げるには相当の勇気が求められます。しかし、その勇気を持たなければ、市民を惑わし、市を二分することにもなりかねないのです。市長の勇気ある決断を求めたいと思います。